

平成 25 年 1 月 15 日

日本医学会分科会用語委員 殿

日本医学会医学用語管理委員会  
委員長 脊山 洋右

かねて懸案であった Churg-Strauss 症候群 (CSS) の新病名である eosinophilic granulomatosis with polyangiitis (EGPA) の日本語病名に関して「好酸球性多発血管炎性肉芽腫症」としたいという要望が厚労省難治性血管炎班 会議 (全体会議) から寄せられました。本疾患の診療にかかわる関係分野の了解が得られたとのこと。

関係する分科会用語委員からの意見を踏まえて医学用語管理委員会で検討した結果、上記提案は妥当であると判断しましたので、お知らせいたします。

今後、Web 上の日本医学会医学用語辞典にて「eosinophilic granulomatosis with polyangiitis」を見出し語として採用し、日本語訳は「好酸球性多発血管炎性肉芽腫症」、略称は「EGPA」、Churg-Strauss 症候群 (CSS) を同義語として記載致します。